

インフラ老朽対策へ連携

中国地整局が組織発足

橋や道路などのインフラの老朽化対策に効率的に取り組むため、国土交通省中国地方整備局は、インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」を発足させた。

中国地方の自治体や民間



老朽化するインフラの維持管理について講演する藤井特任教授（広島市中区で）

企業、研究機関などが連携を図るための組織で、市民らにも会員として参加を呼び掛け、協力し、持続可能な維持管理の方法を探る。

2年前に設立された「インフラメンテナンス国民会議」の地方版。自治体が抱える課題を共有し、研究機関や民間の異業種企業が連携することで効果的な技術開発に取り組むほか、維持管理の効率化などを目指す。技術者の育成や、地域住民と連携して安全なまちづくりへの協力などにも取り組む。

28日の広島市内での初会合では、リーダーを務める広島大の藤井堅・特任教授が講演し、「今後、労働力人口が減り、一層財源が厳しくなる中で、今のような維持管理はできなくなる」と強調。

「税金を払っているから、誰かが安全管理をしてくれるだろうではなく、みんながやっつけていかなければいけない。日頃、身近に接する市民に簡易な点検をしてもらうなどの取り組みが重要だ」などと呼び掛けた。